



学ぶ喜び，研究する喜び，働く喜びに満ちたキャンパスを目指して

旭川医科大学 キャンパスマスタープラン2016

Asahikawa Medical University Campus Master Plan 2016



目次

- 1 目次
- 2 学長のごあいさつ
- 3 キャンパスマスタープランの目的・目標
- 5 アカデミックプラン（基本理念・目標）
- 8 キャンパスマスタープランの整備・活用方針
- 10 キャンパスの現状と課題
- 11 キャンパス概要
- 14 緑が丘東団地 ー医科大学・大学病院ー
- 15 建物概要，現状と課題
- 21 敷地利用の現状と課題
- 23 建物配置の現状と課題
- 24 動線の現状と課題
- 26 駐車場の現状と課題
- 27 インフラの現状と課題
- 28 防災・危機管理の現状と課題
- 30 部門別計画
 - ゾーニング（敷地利用計画）
- 31 パブリックスペース
- 32 建物配置計画
- 33 動線計画
- 35 サステイナブルキャンパス計画
- 36 インフラ計画
- 37 デザイン・サイン計画
- 38 緑が丘団地 ー職員宿舎ー
- 39 配置，駐車場・動線
- 40 宿舎建物概要
- 41 宿舎の現状と課題
- 42 宿舎計画
- 43 あとがき
 - 作成委員

ごあいさつ

国立大学法人旭川医科大学は、地域に根ざした医療・福祉の向上を旗印に、都市部と地方との医療格差を是正したいという、国の強いリーダーシップの下、国立の新設医科大学の第一号として1973年11月に開学しました。

以来、医学科から4,031名、看護学科からは1,201名の卒業生を、地域医療の最前線や研究施設、行政機関へと送り出してきました。

本学では、北海道の医療に貢献する人材を重点的に育てる目的で、現在、医学科入学定員のおよそ5割を「地域枠」として、道内在住者に対して大きく門戸を広げています。その結果、北海道出身者は入学定員の約6割を占めています。

一方で、国際化が進む中、医学教育も国際的な認証評価に適合することが求められ、平成27年度入学生から新たなカリキュラムで学んでいます。

このように、ローカルなニーズに対応し、グローバルに行動できる医療人の育成を、積極的に進めています。



新たに掲げた「機能強化へのビジョン」

1. 人材養成機能の強化
2. イノベーション創出
3. 病院機能の強化
4. グローバル化
5. ガバナンス機能の強化

の下、本学の強み・特色を最大限に活用し、国や社会から寄せられる期待に十分にこたえるため、地域社会におけるシンクタンクとして、総力を挙げて取り組んでおります。

キャンパスマスタープランは、アカデミックプランの実現のため、教育・研究・医療・社会貢献というソフト面と、キャンパスというハード面を結びつける重要な役割を担っており、「キャンパスマスタープラン2009」では、総合研究棟、講義実習棟、図書館などの整備を行いました。

「キャンパスマスタープラン2016」の策定にあたっては、政府が発表した「インフラ長寿命化基本計画」及び文部科学省の「インフラ長寿命化計画（行動計画）」を踏まえており、学生、教職員、地域の方々に愛されるキャンパス構築のために、さらなる努力を続けてまいります。

学長 吉田晃敏

キャンパスマスタープランの 目的・目標

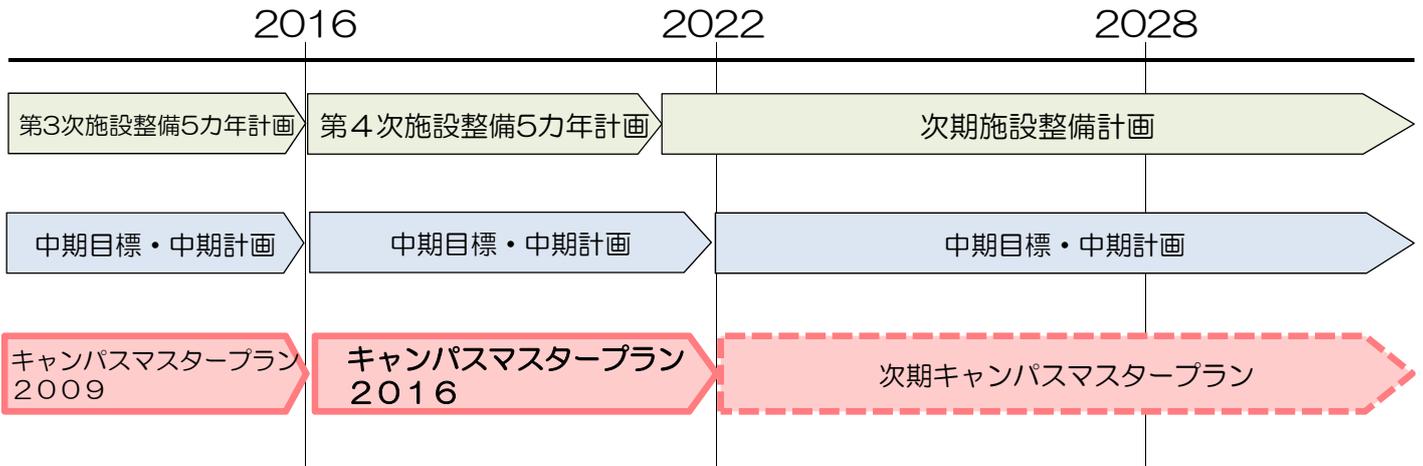
キャンパスマスタープランの目的

「キャンパスマスタープラン2016」は、これまでの2005、2009版を継承し、大学の理念・目標に基づき、学長のリーダーシップのもと、キャンパス整備に関する目標と、それを実現するための方針を定め、土地・施設を大学全体の共有財産として、長期間にわたり良好な状態で有効に活用し、教育・研究・診療が推進される環境と質の確保を図ることを目的とする。

キャンパスマスタープランの目標

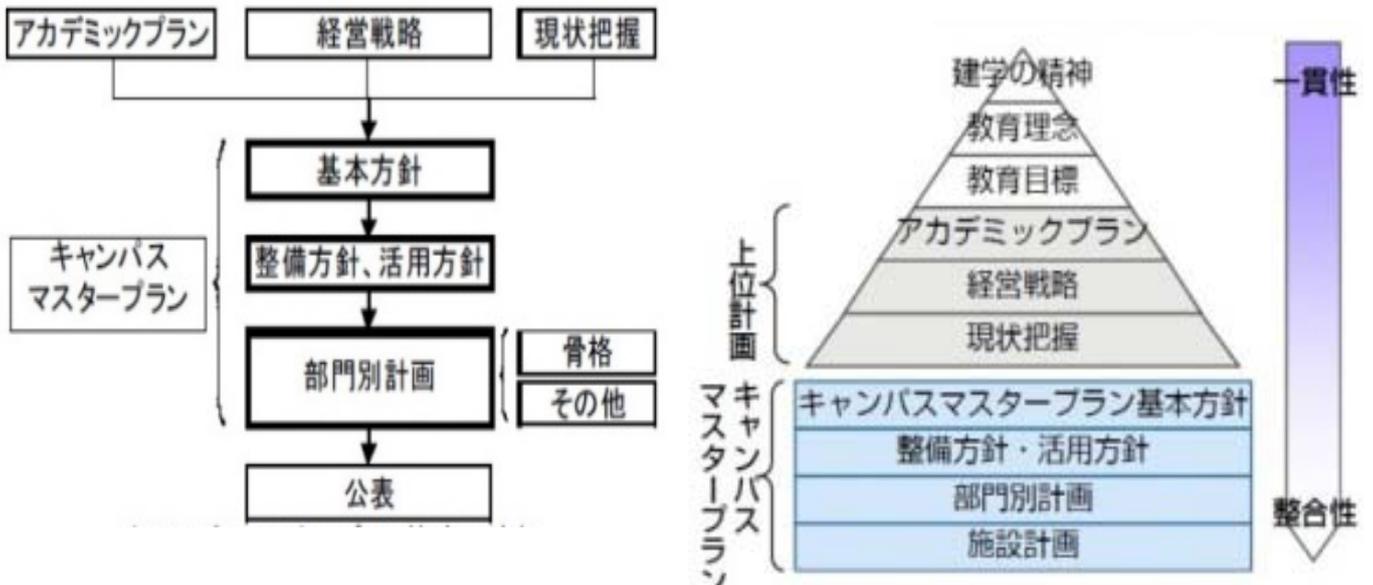
旭川医科大学が定めた教育理念・目標を具現化するために策定された第3期中期目標・中期計画に沿いつつ、文部科学省の「第5期科学技術基本計画」、「第4次国立大学法人等施設整備5か年計画」を踏まえ、質的向上への戦略的整備、地球環境に配慮した安全安心な教育・研究・診療環境を確保し、魅力あるキャンパスとして整備することを目標にする。

キャンパスマスタープランと中期目標、中期計画、施設整備5か年計画との関係性



キャンパスマスタープラン策定の流れ

文科省キャンパスマスタープラン作成の手引きより



アカデミックプラン（基本理念・目標）

教育の理念

豊かな人間性と幅広い学問的視野を有し、生命の尊厳と高い倫理観を持ち、高度な知識・技術を身につけた医療人及び研究者を育成する。

また、地域医療に根ざした医療・福祉の向上に貢献する医療者を育てる。

さらに、教育・研究・医療活動を通じて国際社会の発展に寄与する医師及び看護職者の養成に努める。

教育の目標

旭川医科大学は左記の理念の下にこれらを達成するため、次のような目標を掲げる。

- ①幅広い教養とモラルを養うことにより、豊かな人間性を形成する。
- ②生命の尊厳と医の倫理をわきまえる能力を養い、病める人を思い遣る心を育てる。
- ③全人的な医療人能力や、高度な専門知識を得るとともに、生涯に亘る学習・研究能力を身につける。
- ④幅広いコミュニケーション能力を持ち、安全管理・チーム医療を実践する資質を身につける。
- ⑤地域・僻地住民の医療や福祉を理解し、それらに十分貢献しうる意欲と能力を獲得する。
- ⑥積極的な国際交流や国際貢献のための幅広い視野と能力を習得する。



医学系

- ①旭川医科大学の建学の理念に基づき、地域医療に根ざした医療・福祉の向上に貢献する医師・研究者等の養成を積極的に推進する。特に、道内の高校や医療機関と連携し、地域医療に対する強い意欲・使命感を持った学生の積極的な受入れを推進する。
- ②北海道の医療支援の実績から発展した遠隔医療の研究、高齢化に対応した脳機能医工学研究の推進等、地域特性に対応した様々な研究を始めとする研究の実績を活かし、先端的で特色ある研究を推進し、新たな医療技術の開発や医療水準の向上を目指すとともに、次代を担う人材を育成する。
- ③橋渡し研究支援拠点として、基礎研究成果の臨床への応用を強力に推進することにより研究成果の実用化を図り、日本発のイノベーション創出を目指す。
- ④北海道と連携し、道内の地域医療を担う医師の確保及びキャリア形成を一体的に推進し、広大な北海道の医師偏在の解消に貢献する。
- ⑤地域がん診療連携拠点病院、救命救急センター、地域周産期母子医療センター、地域災害拠点病院等として、地域医療の中核的役割を担う。

看護系

- ①旭川医科大学の建学の理念に基づき、地域医療に根ざした医療・福祉の向上に寄与するため、豊かな人間性と思考力、高い倫理感を有する看護職を育成する。特に、臨地実習までの学習成果を確認し客観的臨床能力試験（OSCE）を導入するとともに能動的学修空間を整備するなど、学生の意欲に応えるため、教育内容や学修環境を充実させ、教育効果を高める。
- ②がん看護専門看護師を始め、急激な高齢化に対応した高度専門的人材や指導的な人材を育成するとともに、看護職の復職支援等によって看護師不足に対応し、道北・道東を始めとする地域の医療へ貢献する。
- ③遠隔看護の研究等の取組を活かし、広大かつ厳しい気候条件にある道北・道東を始めとする地域の住民の健康保持に貢献する。発展途上国の保健行政・母子保健における医療人材の育成の取組を活かし、国際性豊かな医療人を育成し、国際社会への貢献を目指す。



アカデミックプラン

中期目標

大学の基本的な目標

旭川医科大学は、地域医療を担う人材育成という大学設置の原点を踏まえ、更なる教育・研究・医療等の発展、意欲ある医療人の育成、社会貢献等を果たすため、以下の基本的な目標を定める。

- ①豊かな人間性と基礎的・汎用的能力を育む教育を通じ、主体性を持ち国際的にも通用する医療人を養成する。併せて、グローバルな視点に立った研究力と高い実践能力を有する高度専門医療人を養成する。
- ②国際水準の研究や独創性ある研究を積極的に支援するとともに、基礎研究の成果を臨床応用・実用化につなげる一貫した支援体制を構築し、イノベーション創出のための研究環境整備を推進する。
- ③地域社会の課題解決に向けて他大学・研究所・企業・行政機関などとの連携強化を図るとともに、産学官連携による共同研究等を推進し、研究成果の社会還元を図る。
- ④国際社会で活躍できる人材の養成や外国人研修生等の受け入れを強化し、教育・研究の国際化を推進するとともに、国外への情報発信を促進する。
- ⑤高度急性期医療と先進医療の両立を図り、多職種協働による質の高い医療を提供する体制を構築するとともに、医療機能連携の強化及び高度な臨床研究の推進により優れた医療人を育成する。
- ⑥学長のリーダーシップの下で、学内資源の再配分や大学ガバナンス体制の点検・見直しを戦略的に進め、安定した財務基盤を構築する。



キャンパスマスタープランの 整備・活用方針

整備基本方針

施設整備費による整備と予防的な施設管理の導入や効果的な修繕等により、教育・研究・診療に対する施設水準を確保し、全学的な視点からスペースの再配分等による既存施設の有効利用を図る。

また、地域連携や外部資金等による多様な財源を活用した整備を検討、既存施設の防災機能強化、耐震化の計画期間内の完了、災害時の救命救急医療の拠点としての整備など老朽改善・狭隘解消・大学附属病院の再生を図る。

（全体について）

- ①施設の省エネルギー化を図り、地球環境の保全に貢献するとともに、サステナブルなキャンパスを目指す。
- ②既存施設の長寿命化、及び有効活用のために、調査等による優先順位のもと、計画的に修繕や整備を行うことで、安全安心な教育・研究・診療・福利施設環境を確保。
- ③利用者、近隣を視野に入れた、パブリックスペースの充実。
- ④施設の点検見直しによる再配分や、長寿命化のための整備。

（教育について）

- ①高度な知識・技術を身につける医療人を育成するための整備。
- ②国際社会の発展に寄与する人材養成のための整備。
- ③地域医療に貢献する人材育成のための整備。

（研究について）

- ①先端的で特色のある研究を推進するための整備。
- ②産学官連携の共同研究、橋渡し研究、イノベーション創出のための整備。
- ③研究成果を効果的に社会に還元するための環境の構築。

（診療について）

- ①最先端の医療、高度救命救急診療、国際遠隔医療に対応するための整備。
- ②地域医療に貢献するための整備。
- ③災害拠点等、中核的役割を担うための整備。



活用方針

- ①施設マネジメントを推進することにより，大学の重要資源である施設の有効活用を図る。
- ②土地の利用を見直し，必要に応じて土地の有効活用を図る。
- ③既存施設の再生を軸としたリノベーションの手法により，変化に対応した整備活用を図る。
- ④弾力的，流動的な運用が可能なスペースを確保し，共同利用スペースとして活用する。

実施方針

- ①計画的な概算要求による整備。
- ②学内経費による戦略的な整備。
- ③外部資金，寄附等による整備。
- ④長期借入金の活用。
- ⑤多様な整備手法の活用。

整備行動計画

平成18年度に策定された「第2次国立大学等施設緊急整備5か年計画」及び平成23年度策定の「第3次国立大学法人等施設整備5か年計画」の進捗状況をもとに，第3期中期目標・中期計画に沿った整備行動計画の見直しを行った。

整備行動計画については，別添資料参照。



キャンパスの現状と課題

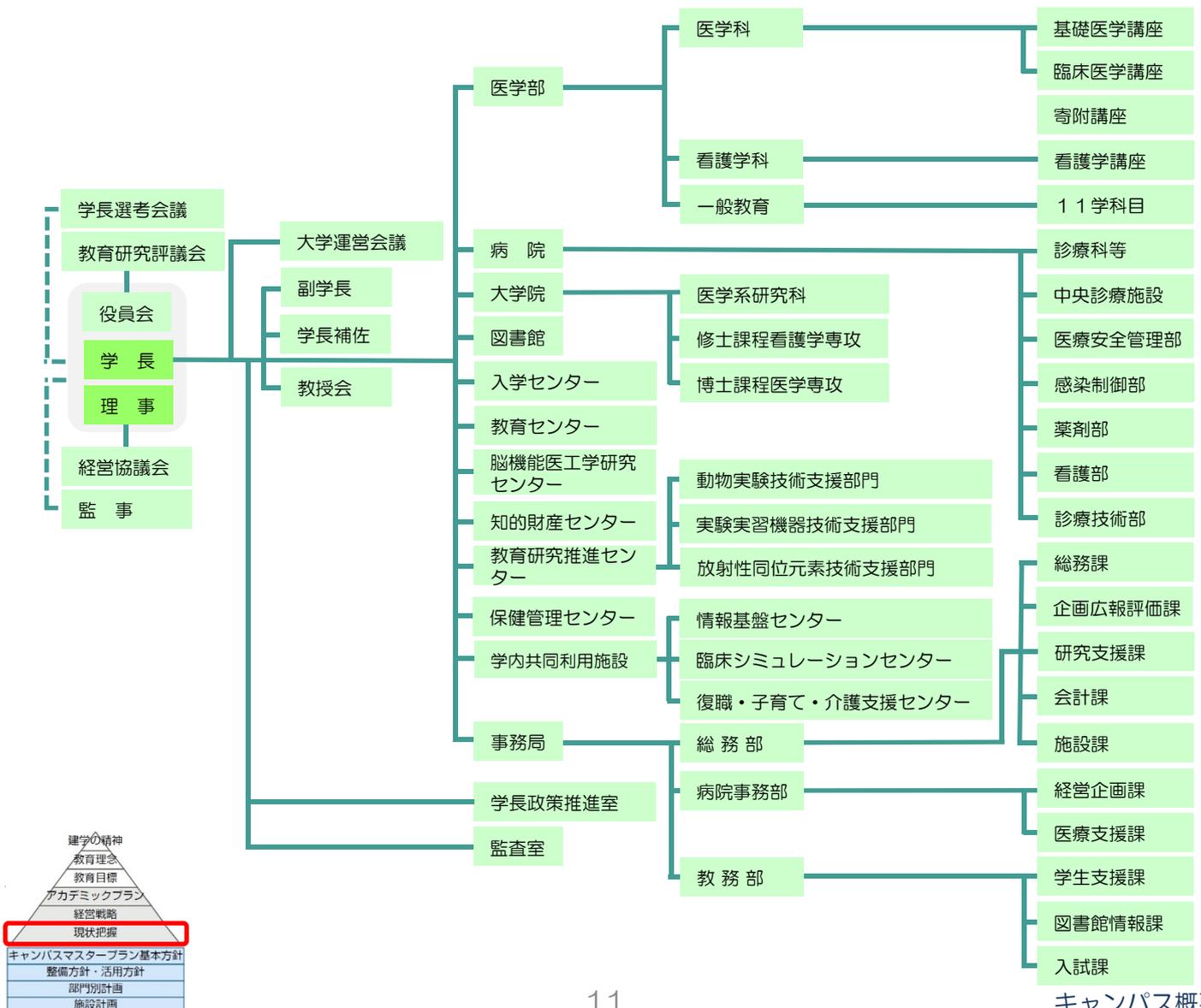


キャンパス概要

大学概要

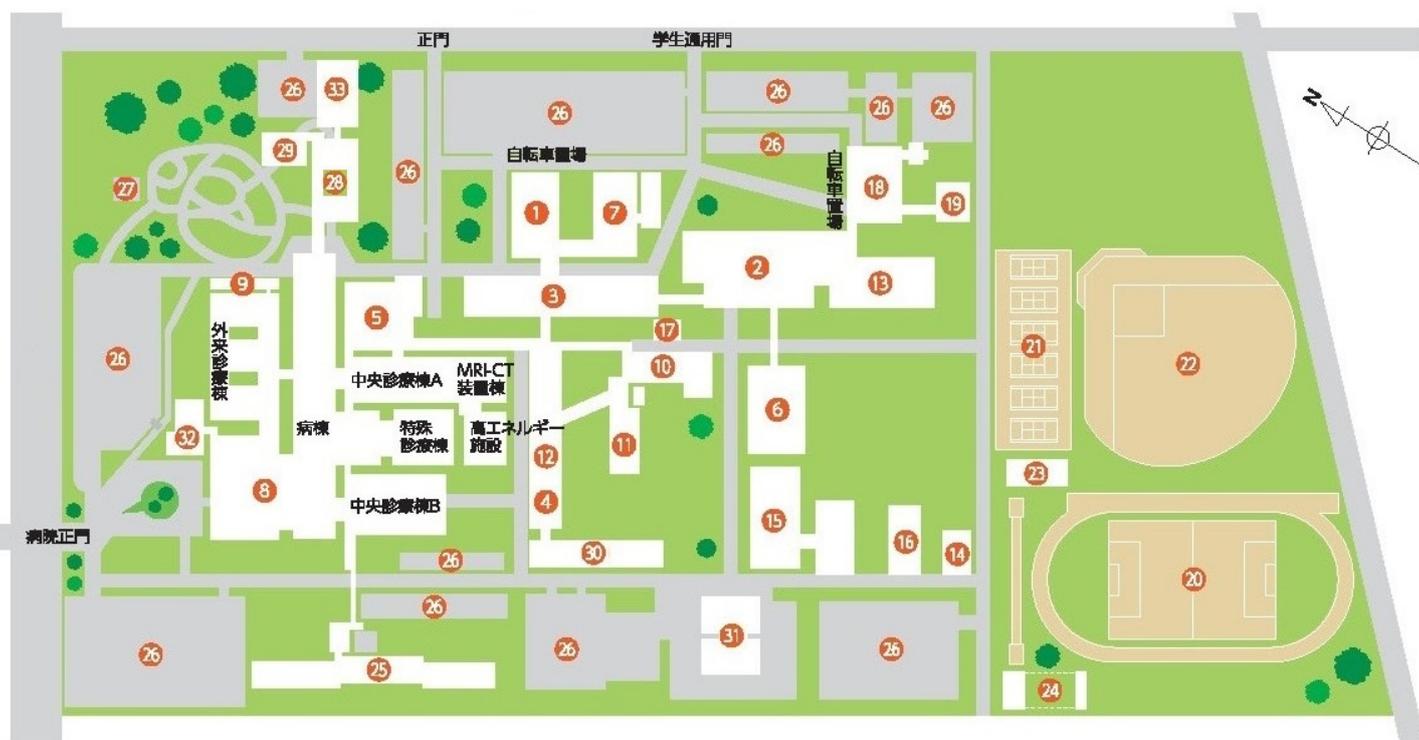
- 大学名 国立大学法人旭川医科大学
- 所在地 緑が丘東団地 旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号
緑が丘団地 旭川市緑が丘2条3丁目, 4丁目
- 学生数 (入学定員)
医学科 122人 (2年次編入学定員10を含む)
看護学科 70人 (3年次編入学定員10を含む)
(現員) (H28.5.1現在)
医学科 724人
看護学科 238人
- 教職員数 1,334人 (H28.5.1現在)

組織図 (平成28年5月現在)



キャンパスマップ

緑が丘東団地（医科大学・大学病院）



- | | | |
|--------------|----------|-----------------|
| ①本部管理棟 | ⑬福利施設 | ⑳看護師宿舎・ファミリーハウス |
| ②講義実習棟 | ⑭犬舎 | ㉑駐車場 |
| ③総合研究棟 | ⑮中央機械室 | ㉒大学の森 |
| ④臨床研究棟 | ⑯廃棄物処理施設 | ㉓共通棟A |
| ⑤臨床講義棟 | ⑰危険物保管庫 | ㉔保育園 |
| ⑥看護学科棟 | ⑱体育館 | ㉕共用研究棟 |
| ⑦図書館 | ㉒武道場 | ㉖ドクターヘリヘリポート |
| ⑧病院 | ㉓陸上競技場 | ㉗食堂棟 |
| ⑨遠隔医療センター | ㉔テニスコート | ㉘共通棟B |
| ⑩動物実験施設 | ㉕野球場 | |
| ⑪放射性同位元素研究施設 | ㉖体育管理施設 | |
| ⑫実験実習機器センター | ㉗弓道場 | |

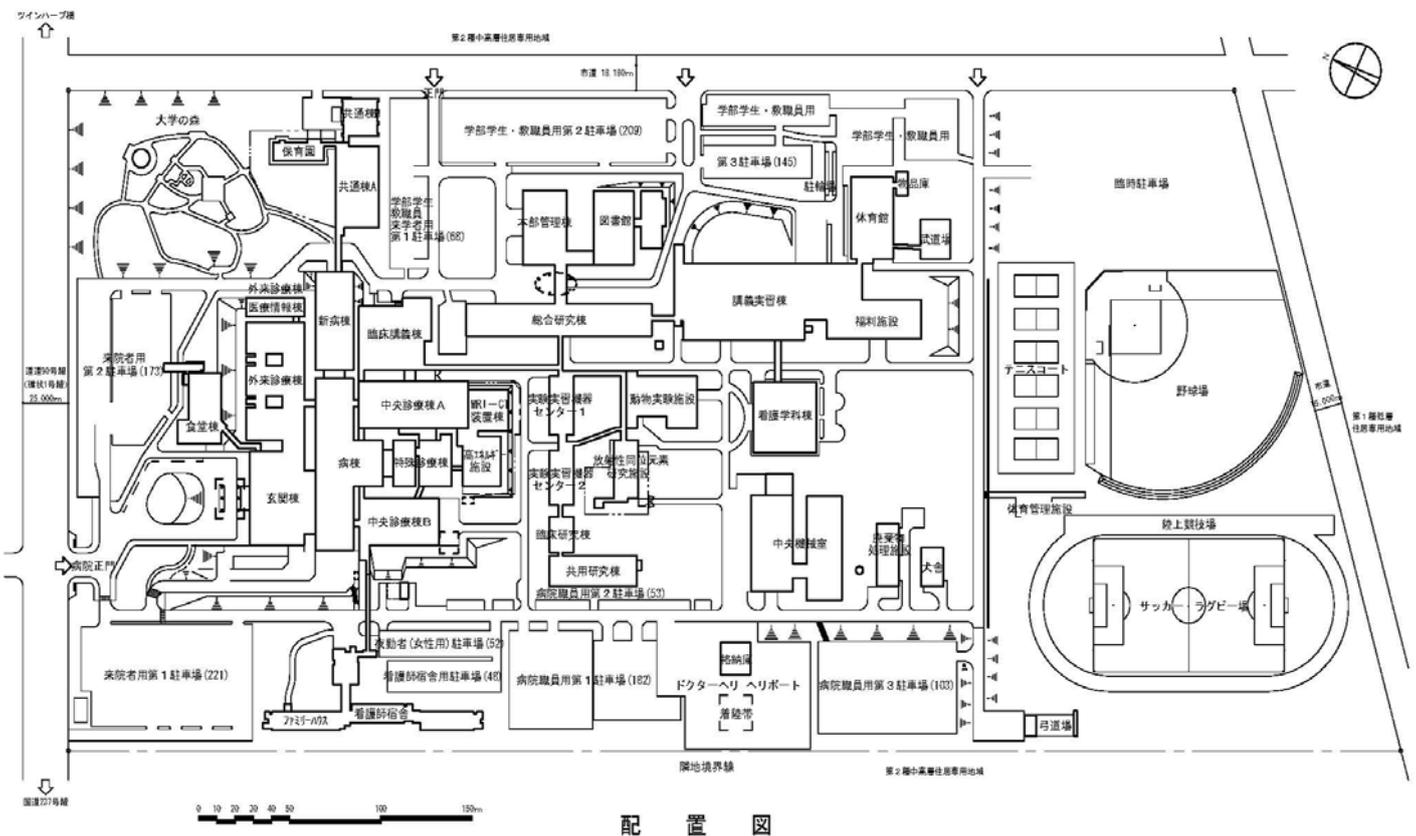
※緑が丘団地（職員宿舎）は省略



緑が丘東団地 — 医科大学，大学病院 —

団地概要

敷地面積	231,828㎡	地震地域係数	三種
建物延面積	120,711㎡	地盤係数	二種
都市計画区域	都市計画区域内，市街化区域	積雪寒冷地域	一級
用途地域	第2種中高層住居専用地域	その他	公害防止地域（大気汚染，騒音，振動，悪臭）
	建ぺい率60%		
	容積率200%		
日影規制	3時間，2時間		



南北に長い本団地は北側，東側，南側に公共道路が接し西側は隣地に接しており，北側道路から病院へ公共交通が乗り入れている。

キャンパス内の建物は，病院病棟が11階，総合研究棟が8階建，看護学科棟が6階建てで，その他は低層階の建物が多い。



建物概要



①本部管理棟

建築年 1976年・1978年
 建築面積 1,123㎡
 延面積 2,142㎡
 構造階数 R2
 I s 1.00



②講義実習棟

建築年 1974年・1979年
 建築面積 3,019㎡
 延面積 7,195㎡
 構造階数 SR4
 I s 0.70
 2012~2013年度 改修



③総合研究棟

建築年 1975年・1976年・
 1978年
 建築面積 1,782㎡
 延面積 13,997㎡
 構造階数 SR8
 I s 0.70
 2008~2010年度 改修



④臨床研究棟

建築年 1988年
 建築面積 260㎡
 延面積 1,318㎡
 構造階数 R5



⑤臨床講義棟

建築年 1976年・1979年
 建築面積 1,490㎡
 延面積 1,590㎡
 構造階数 R1
 I s 1.28
 2012年度 講義室3改修
 2013年度 講義室1改修
 2015年度 講義室2改修
 (いずれも天井耐震改修含)



⑥看護学科棟

建築年 1998年・1999年
 建築面積 1,051㎡
 延面積 6,477㎡
 構造階数 SR6



⑦図書館

建築年 1978年
 建築面積 887㎡
 延面積 1,811㎡
 構造階数 R2
 I s 0.61→0.72
 2009年度 太陽光発電設備設置
 2014年度 増築
 2015年度 改修



⑧病院

建築年 1976年~2004年
 建築面積 12,225㎡
 延面積 60,476㎡
 構造階数 SR11
 I s 0.69
 2003~2006年度 改修
 2010年度 食堂棟新営
 2016年度 玄関棟天井耐震改修



⑨遠隔医療センター（医療情報棟）

建築年 1999年
 建築面積 295㎡
 延面積 885㎡
 構造階数 R3



⑩動物実験施設
 建築年 1976年・1978年・
 1982年・1985年
 建築面積 1,082㎡
 延面積 2,543㎡
 構造階数 R3
 I s 0.73



⑪放射性同位元素研究施設
 建築年 1976年
 建築面積 493㎡
 延面積 948㎡
 構造階数 R2
 I s 0.84



⑫実験実習機器センター1
 建築年 1974年
 建築面積 487㎡
 延面積 1,461㎡
 構造階数 R3
 I s 1.20



⑬実験実習機器センター2
 建築年 1981年
 建築面積 495㎡
 延面積 2,194㎡
 構造階数 R5
 I s 0.78
 2015年度 改修（耐震改修含）



⑭福利施設
 建築年 1974年・1985年
 建築面積 1,390㎡
 延面積 2,331㎡
 構造階数 R2
 I s 0.80



⑮大舎
 建築年 1978年
 建築面積 241㎡
 延面積 241㎡
 構造階数 R1



⑯中央機械室
 建築年 1974年・1976年・
 1995年
 建築面積 2,902㎡
 延面積 3,055㎡
 構造階数 R2
 I s 0.81



⑰廃棄物処理施設
 建築年 1976年
 建築面積 448㎡
 延面積 448㎡
 構造階数 R1



⑱危険物保管庫
 建築年 1979年
 建築面積 20㎡
 延面積 20㎡
 構造階数 R1



⑱ 体育館
 建築年 1974年
 建築面積 1,082㎡
 延面積 1,082㎡
 構造階数 S1
 I s 0.71
 2016年度 天井耐震改修



⑲ 武道場
 建築年 1983年
 建築面積 424㎡
 延面積 424㎡
 構造階数 R1
 2015年度 天井耐震改修



⑳ 陸上競技場



㉑ テニスコート



㉒ 野球場



㉓ 体育管理施設
 建築年 1978年
 建築面積 160㎡
 延面積 160㎡
 構造階数 R1



㉔ 弓道場
 建築年 1981年
 建築面積 78㎡
 延面積 78㎡
 構造階数 W1



㉕ 看護師宿舎・ファミリーハウス
 建築年 1976年・1978年
 建築面積 1,422㎡
 延面積 5,709㎡
 構造階数 R5
 I s 0.80
 1993年度 改修



㉖ 病院来院者用第一駐車場



②⑥ 病院来院者用第二駐車場



②⑥ 病院職員用第一駐車場



②⑥ 病院職員用第三駐車場



②⑥ 第一駐車場



②⑥ 第二駐車場



②⑥ 第三駐車場



②⑥ 臨時駐車場



②⑦ 大学の森
屋外リハビリテーション施設



②⑧ 共通棟A
建築年 2006年
建築面積 1,047㎡
延面積 1,047㎡
構造階数 S1



②⑨ 保育園
 建築年 2006年
 建築面積 294㎡
 延面積 294㎡
 構造階数 S1



③⑩ 共用研究棟
 建築年 2008年
 建築面積 747㎡
 延面積 1,500㎡
 構造階数 S2



③⑪ ドクターハリポート



③⑫ 病院食堂棟
 建築年 2010年
 建築面積 1,290㎡
 延面積 1,290㎡
 構造階数 R1



③⑬ 共通棟B
 建築年 2012年
 建築面積 374㎡
 延面積 1,078㎡
 構造階数 S3



○大学正門



○病院正門



○学生玄関



○中央玄関

現状

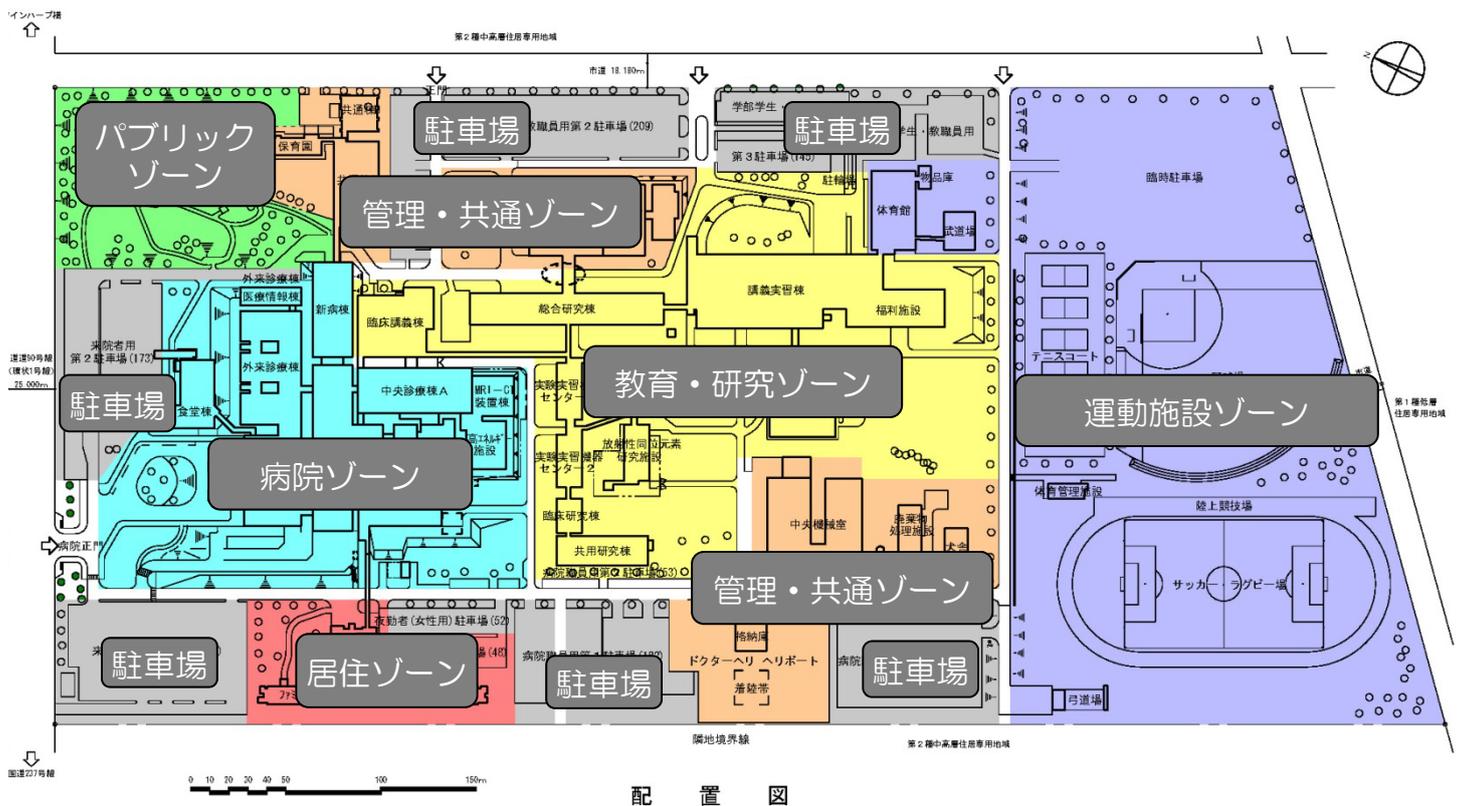
建物は、最も古いもので1974年新嘗より42年が経過しているが、改修計画が進み、病院の再開発を始め、総合研究棟、講義実習棟、実験実習機器センター2など主な改修が進み、経年による老朽化した未改修建物は動物実験施設、放射性同位元素研究施設、福利施設、本部管理棟等を残すのみとなった。

課題

- 動物実験施設、放射性同位元素研究施設等の先端研究のための施設の老朽化、狭隘化、陳腐化が著しいことから改修・増築を推進する。
- 学生のための福利施設の整備が遅れている。特に開学以来食堂の面積は変わっておらず、整備が必要である。
- 福利施設がバリアフリーに対応していないことから保健管理センター（現状は2階）の配置を検討する必要がある。
- 屋外運動施設は、老朽度、活用度から緊急性を考慮して整備をしていかなければならない。
- 看護師宿舎の入居率が低い（H28.12現在43%）ことから、ファミリーハウスの拡充やマクドナルドハウスへの転用を推進する。
- 看護学科及び講義実習棟の講義室、チュートリアル室の空調の整備が必要である。
- 本部管理棟が陳腐化している。特に学生対応が不便に成りつつある。
- 廃液処理施設は用途を廃止しているが、既存の設備機器が残存しており、その撤去を含めた取り壊し又は転用が必要である。



敷地利用の現状と課題



□教育研究ゾーン

- 総合研究棟
- 臨床研究棟
- 共用研究棟
- 福利施設（保健管理センター）
- 学内共同施設～実験実習機器センター
- 動物実験施設
- 放射性同位元素研究施設
- 講義実習棟
- 看護学科棟

□病院ゾーン

- 玄関棟
- 病棟
- 特殊診療棟
- 高エネルギー施設
- 病院食堂棟
- 外来診療棟
- 中央診療棟A, B
- MR I - CT装置棟
- 臨床講義棟

□居住ゾーン

- 看護師宿舎
- ファミリーハウス

□管理・共通ゾーン

- 本部管理棟
- 共通棟
- 保育所
- 図書館
- 中央機械室
- ヘリポート

□運動施設ゾーン

- 体育館
- 野球場
- サッカー、ラグビー場
- 弓道場
- 武道場
- 陸上競技場
- テニスコート

□パブリックゾーン

- 緑地
- 大学の森

□駐車場

- 来院者駐車場
- 学生教職員駐車場
- 看護師宿舎駐車場
- 病院職員用駐車場



現状

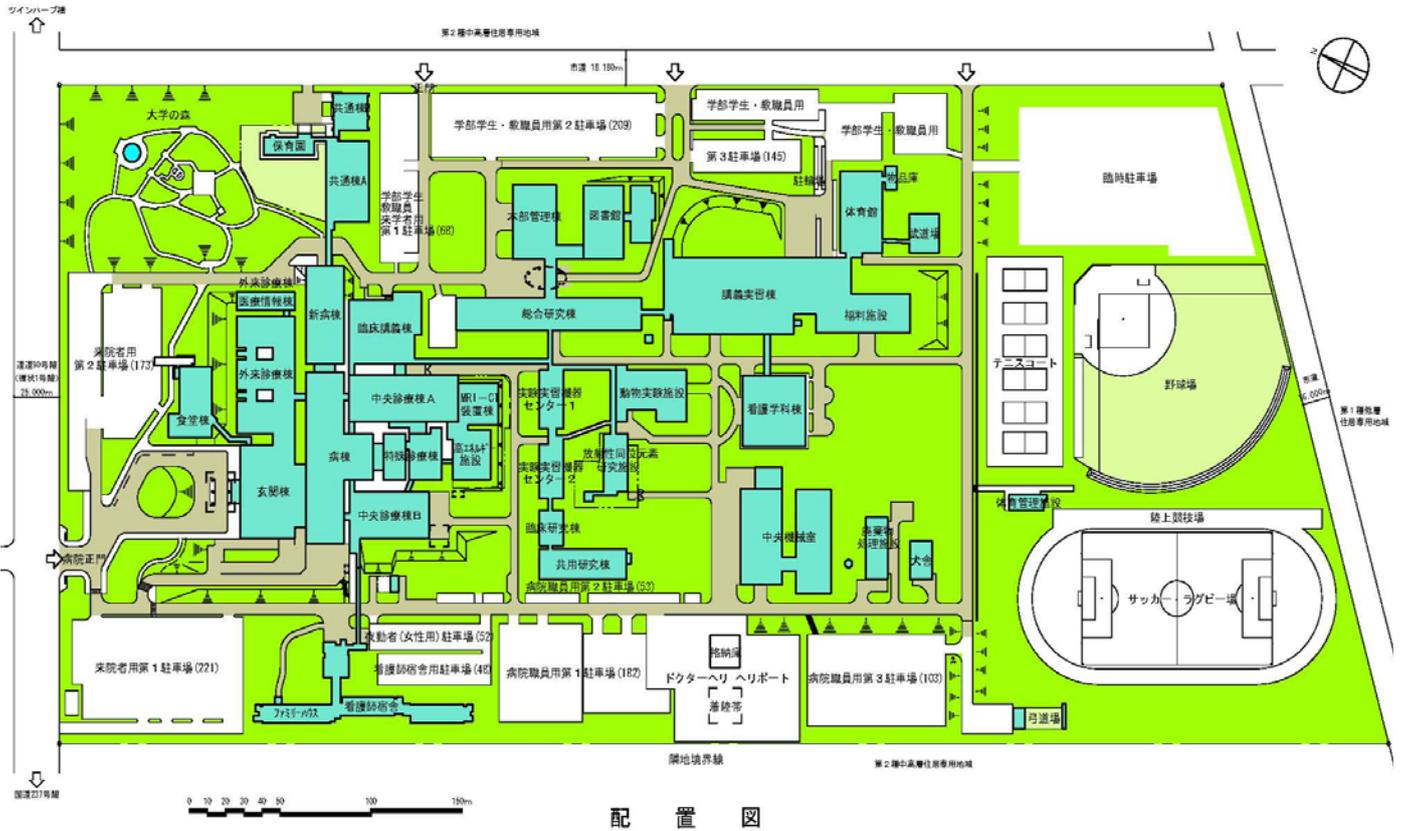
- ・緑が丘東団地の敷地全体面積は231,828㎡で、建ぺい率16%（法60%）容積率52%（法200%）で、第2種中高層住居専用地域内にある。
- ・キャンパスは南北に長い敷地で、大きくは北側から順に病院ゾーン、教育研究ゾーン、運動施設ゾーンの3つに分けられ、病院ゾーンの西側に居住ゾーン（看護師宿舎）、教育研究ゾーンの東西に管理共通ゾーンを設けて、教育研究と病院の有機的な結合を図っている。
- ・学部へのアプローチは東側公道（幅員18m）からとなっており、病院へのアプローチは路線バスが乗り入れている北側公道（幅員25m）からとなっている。
- ・周辺道路から主要施設の間には、駐車場や緑地を設けることで、周辺環境の変化による影響を最小限に抑えている。
- ・将来需要に対応するための用地確保については、教育研究ゾーンに1,800㎡と3,300㎡の用地、運動施設ゾーンに10,000㎡の用地を確保している。
- ・本学のキャンパスは、旭川市から避難所に指定されている。

課題

- ・近年、外来患者が増加しており、それに伴い駐車場の不足が深刻である。
- ・学生の駐車場にしても、路上駐車が目立ち、新たな駐車場の整備が必要と思われる。
- ・敷地西面のアプローチが一つも無く、商業施設や公共施設が増えてくることから取付道路などの通路の確保が必要である。
- ・北側にある「大学の森」はパブリックスペースとして、市民、近隣、来院者の憩いの場として整備されているが、利用者は多くない。
- ・運動施設ゾーン東側の将来用地は駐車場として整備することを考慮する必要があるため運動施設ゾーンから外すことが考えられる。



建物配置の現状と課題



現状

敷地利用のゾーン計画毎に建物配置されている。

課題

建物については、整備面積をほぼ満たしているが、今後の大学、病院運営により整備を計画するものとする。



①主要動線計画

- ・駐車場の管理は、医学部・病院共ゲート管理しており、今後も継続する。
- ・医学部及び病院では一部、歩車道分離が明確になっていないため、安全に通行するための道路整備について検討する。

②歩行者動線

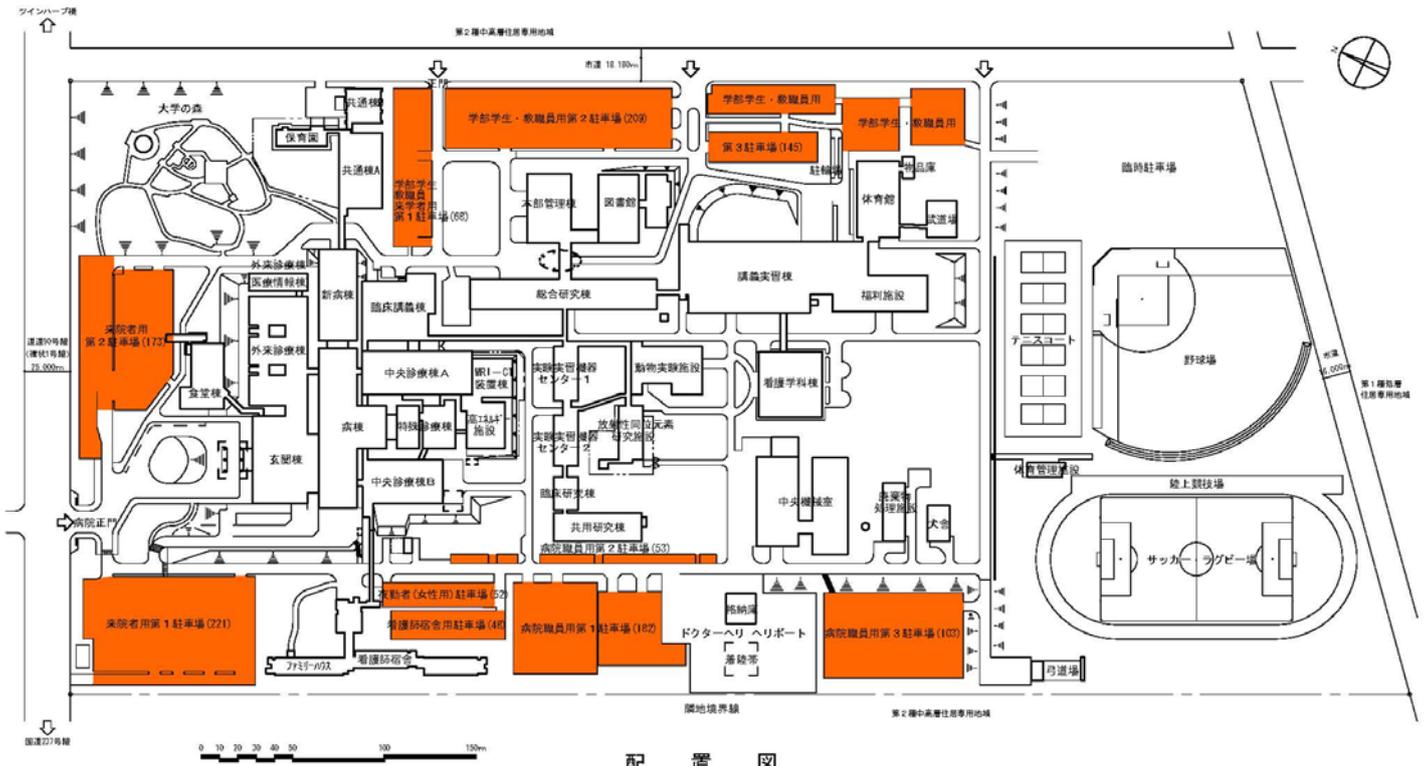
- ・学部正門から臨床講義棟までの間について、歩車道分離がなされていなく通行に支障が考えられるため歩道の設置を検討する。
- ・病院時間外玄関から来院者用第1駐車場までの間は、一般車の通行が多いため、歩行者の安全を考慮して横断歩道を設置したが、歩道の設置も検討する。
- ・病院正門から病院玄関までの歩行者動線が車動線と交差しており、対策が必要である。
- ・西側に通用門がないことから、南側に将来増えるであろう商業施設、公共施設の利用のためのアクセス通路の確保が必要と思われる。
- ・本学は避難場所になっているが、西側から通用道路がないことは避難者受入に支障を来すことが考えられる。

③サービス用車両動線

- ・メイン車両動線から、メンテナンス・物品搬入、廃棄物等の出入り口となる各建物のバックヤードにつながるように計画する。
- ・看護学科、解剖室周辺の道路が狭く交通に支障がある。



駐車場の現状と課題



配置図

凡例

■ 駐車場

現状

- 敷地の外周に駐車場を配している。
- 医学部側駐車場は、学生・教職員、病院職員に分けてそれぞれゲートによる管理をしている。
- 病院側はゲート管理している来院者用駐車場を2か所設けている。
- 入構車両、駐車場はゲート管理とし基本的に有料化を継続する。

課題

- 路上駐車が増加しており、東側の臨時駐車場の整備を検討する。
- 病院側はゲート管理している来院者用駐車場を2か所設けているが、時間的に（特に10時前後）混雑が著しいため、立体駐車場など今後の増設の検討が必要である。
- 利用度の低い宿舍敷地等を駐車場用地へ転用を検討する。
- 身障者駐車場が少なく、アプローチも長いことから、玄関棟1階に設けることも検討する。
- 学生玄関前の駐車場の解消を検討する。



インフラの現状と課題

図面は資料編参照

現状

①電気

- ・現在は、北海道電力旭川変電所から学部・病院用として特別高圧33kVで受電し、契約電力3,400kWの1回線で運用している。
- ・また、看護師宿舎用として高圧6kVを引き込んでいる。
- ・発電機設備は非常用発電機2,000kVA1台、常用発電機1,500KVA1台を設置している。常用発電機はデマンド抑制のためピークカット用に運転している。
- ・非常時は、非常用・常用発電機の計2台で電源を確保することとしている。
- ・平成21年より図書館屋上に30kWの太陽光発電装置を設置した。年間約25,000kWhを発電している。

②通信

- ・電話設備は平成26年にデジタル交換機の更新を行った。
- ・キャンパス情報ネットワークについては、学内LAN、院内LAN（病院総合情報システム）が構築されている。

③給水

- ・2本の井戸と市水から給水している。1本の井戸は雑用水として配水し、もう1本は平成28年度から地下水浄化システムにより飲用に配水している。
- ・受水槽は飲料用480t、雑用750tを設置している。

④排水

- ・排水は、雨水・生活排水の2系統に分けて建物回りに敷設し、各建物最終枦から合流構内排水主幹を経て公共下水道に放流している。
- ・平成28年12月から下水道量メーターを設置した。
- ・特殊排水（RI排水等）は、それぞれ処理された後、排水枦に接続している。
- ・実験用廃液は定められた規程により、放流禁止とし、専用ポリタンクにより回収の上、専門業者による処分としている。

⑤ガス

- ・旭川ガス（株）から45GJ/千m³の都市ガスの供給を受けボイラー（3基）及び自家発電設備（常用）に使用している。
- ・ガス埋設配管は平成20年度に取替を完了。

課題

インフラについては、病院を有するキャンパスであることから、災害に強く、確実に供給できるものとしなければならない。

このため、別途「旭川医科大学インフラ長寿命化計画」に基づき整備を進め、状況に応じて見直すこととする。



現状

①耐震化

建物構造の耐震化

- 病棟4階（Is値0.69）を除く建物は耐震性能を満たしている。
- 非構造部材の耐震化については現基準に基づき、対象となる箇所は措置済である。（体育館、武道場、玄関棟、臨床講義棟）

②災害拠点病院として機能強化

○電力

- 非常用発電機を設置しており、3日分の稼働（機能の一部）を確保している。
- ガスの供給が可能であれば非常用発電機に加え、常用発電機の稼働が可能。

○電話

- 衛星携帯電話を有している。

○給水

- 飲料用については井水浄化システムが稼働であれば供給可能。
- 雑用水については井水ポンプが稼働であれば供給可能。

○備蓄

- 非常食3日分を含め、非常用品を備蓄した仮設倉庫を有している。

③減災対策

• 転倒防止

安全パトロールにより、大型ロッカー等の転倒防止対策を推進している。

• ガラス飛散防止

体育館のみ措置済

• ポータブルボンベ

緊急時の対応として各病棟に備え付けている。

• 安全点検

法令で定められている点検の他、安全パトロール、安全自主点検、防火自主点検などを行っている。

課題

①耐震化

- 病棟の耐震改修が急務である。

②災害拠点病院として機能強化

○給水

- 停電時またはポンプ破損時の対応。

③減災対策

- 防災意識に個人差があり、意識の向上が望まれる。



現状

④セキュリティ

○警備

- ・防災センターに警備員を配し定期的に巡回している。

○電気錠

- ・防犯のため時間外は電気錠による施錠を行っている。
- ・非常時はパニックオープンとしている。

⑤避難場所

大学は避難所に指定されている。

⑥マニュアル，規程の整備

災害対策マニュアル

安全管理規程

化学物質安全管理規程

課題

④セキュリティ

- ・電気錠のセキュリティ方式については，学生証，職員証による統一化の検討。

⑤避難場所

- ・避難施設としての整備（体育館，武道場等）。
- ・暖房，給水など長期使用時の対応。

⑥マニュアル，規程の整備

- ・遵法精神，教育の推進。

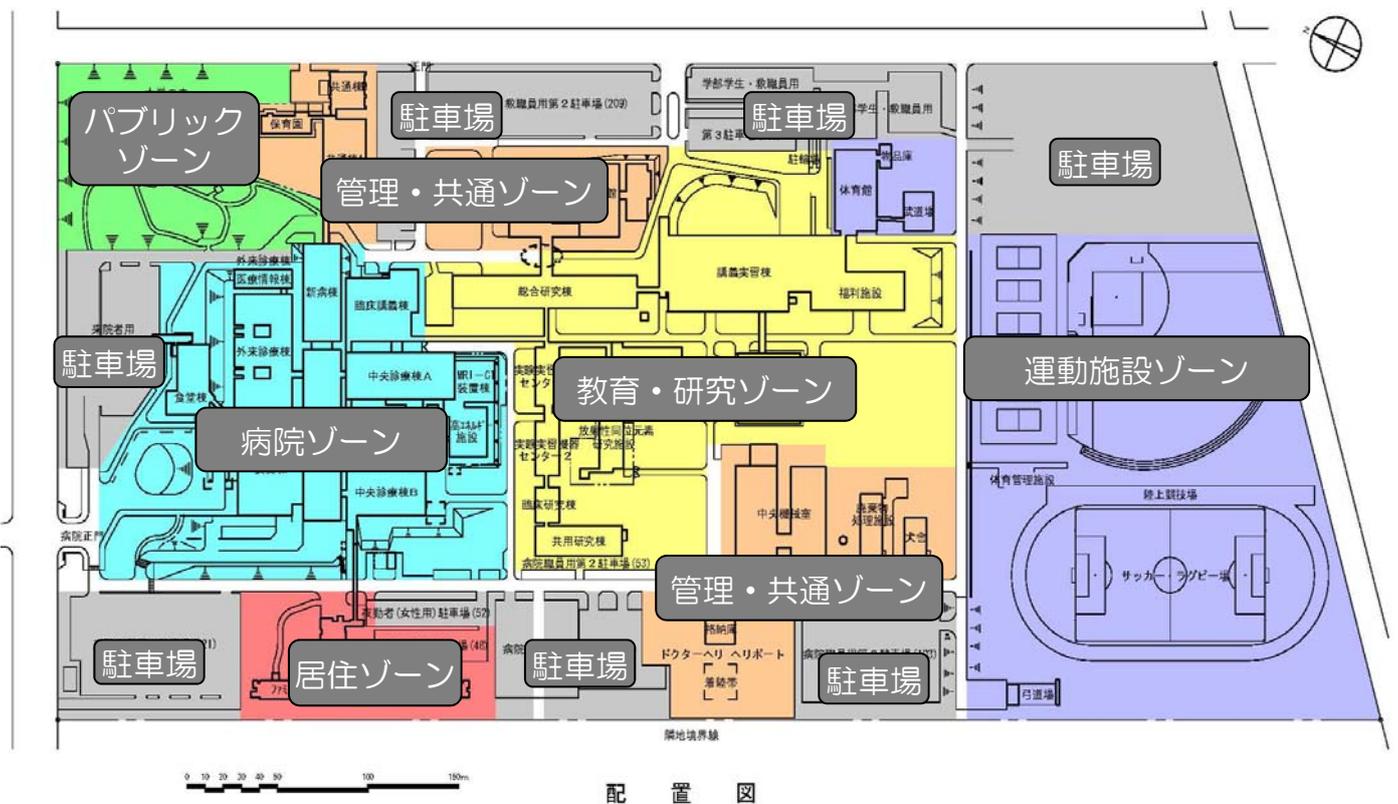


部門別計画

ゾーニング（敷地利用計画）

本学のキャンパスゾーニングは、配置図のように北側が病院ゾーン、中央に教育・研究ゾーン、南側に運動施設ゾーン、周辺に駐車場を配置し、全体的にまとまりがある。

現状のゾーニングを踏襲するが、将来における組織改編、再開発等に伴う建物配置の見直しに柔軟に対応する。



主な変更点

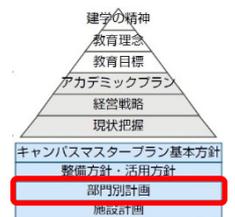
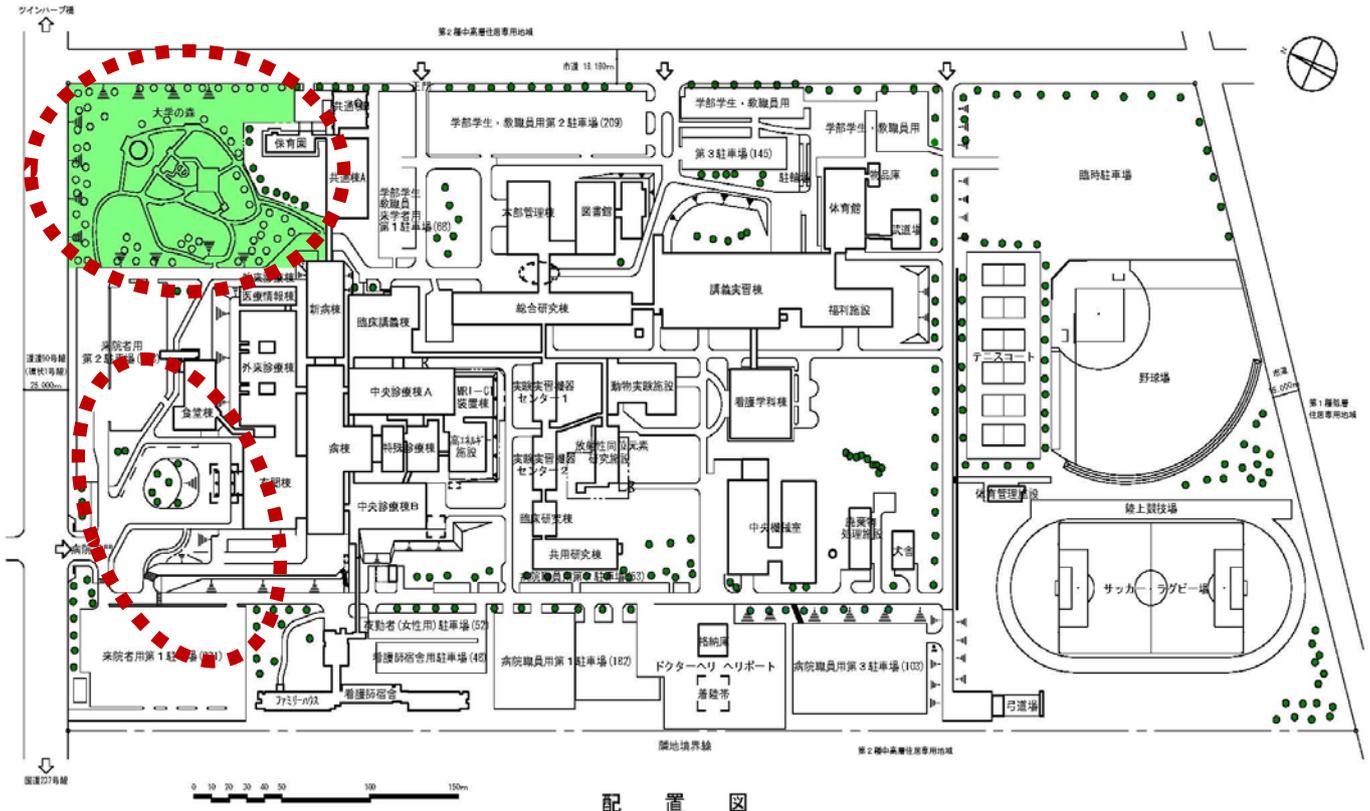
- ・駐車場の拡充候補地として、東側の用地を運動施設ゾーンから外し、駐車場の拡充スペースにできるものとする。
- ・臨床講義棟を病院ゾーンに変更。
- ・西側に取付道路用の通路を確保できるものとしておく。（取付道路については旭川市と交渉が必要）



パブリックスペース

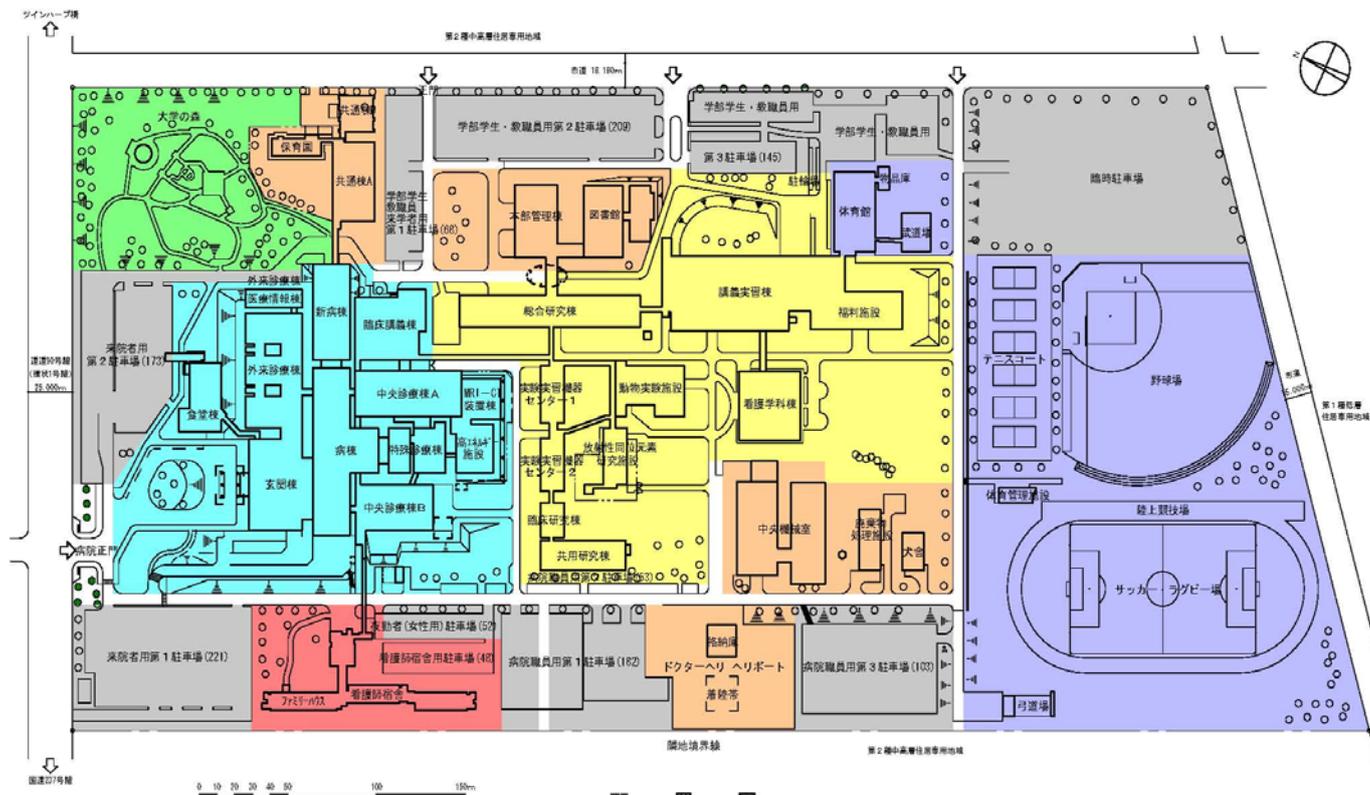
パブリックスペースとして、「大学の森」を維持継続するが、利用状況を見ながら拡充、縮小を検討できるものとする。

病院利用者だけでなく、近隣住民のための公共交通機関としてバス停留所、待機場、タクシー乗り場を維持継続する。



建物配置計画

ゾーニング毎に目的に合った建物を配置する。



配置図

□教育研究ゾーン

教育・研究の目的を達成するための施設を整備する。

主な整備

- ・総合研究棟
- ・講義実習棟
- ・看護学科棟
- ・臨床研究棟
- ・共用研究棟
- ・福利施設（保健管理センター）
- ・学内共同施設～実験実習機器センター
- ・動物実験施設，同増築
- ・放射性同位元素研究施設

□管理・共通ゾーン

事務組織など管理，共用のための施設を整備する。

主な整備

- ・本部管理棟
- ・図書館
- ・共通棟
- ・保育所
- ・中央機械室
- ・ヘリポート
- ・講堂

□運動施設ゾーン

運動施設は，現状の位置を基本とする。

主な整備

- ・体育館
- ・武道場
- ・体育管理施設
- ・野球場
- ・弓道場
- ・陸上競技場
- ・サッカー，ラグビー場
- ・テニスコート

□病院ゾーン

最先端医療，高度救命救急診療，国際遠隔医療，地域医療，災害拠点等に必要の施設を整備する。

主な整備

- ・玄関棟
- ・外来診療棟
- ・中央診療棟A，B
- ・病棟
- ・特殊診療棟
- ・MRI-CT装置棟
- ・臨床講義棟
- ・病院食堂棟
- ・医療情報棟
- ・高エネルギー施設
- ・敷地内貸付等活用施設

□パブリックゾーン・緑地

利用者，近隣を視野にいれた憩いの空間として整備する。

主な整備

- ・大学の森
- ・緑地

□駐車場

駐車場を整備する。

主な目的別駐車場

- ・来院者駐車場
- ・学生，職員駐車場
- ・看護師宿舎駐車場
- ・病院職員駐車場

□居住ゾーン

看護師宿舎，ファミリーハウス等の居住のための施設を整備する。

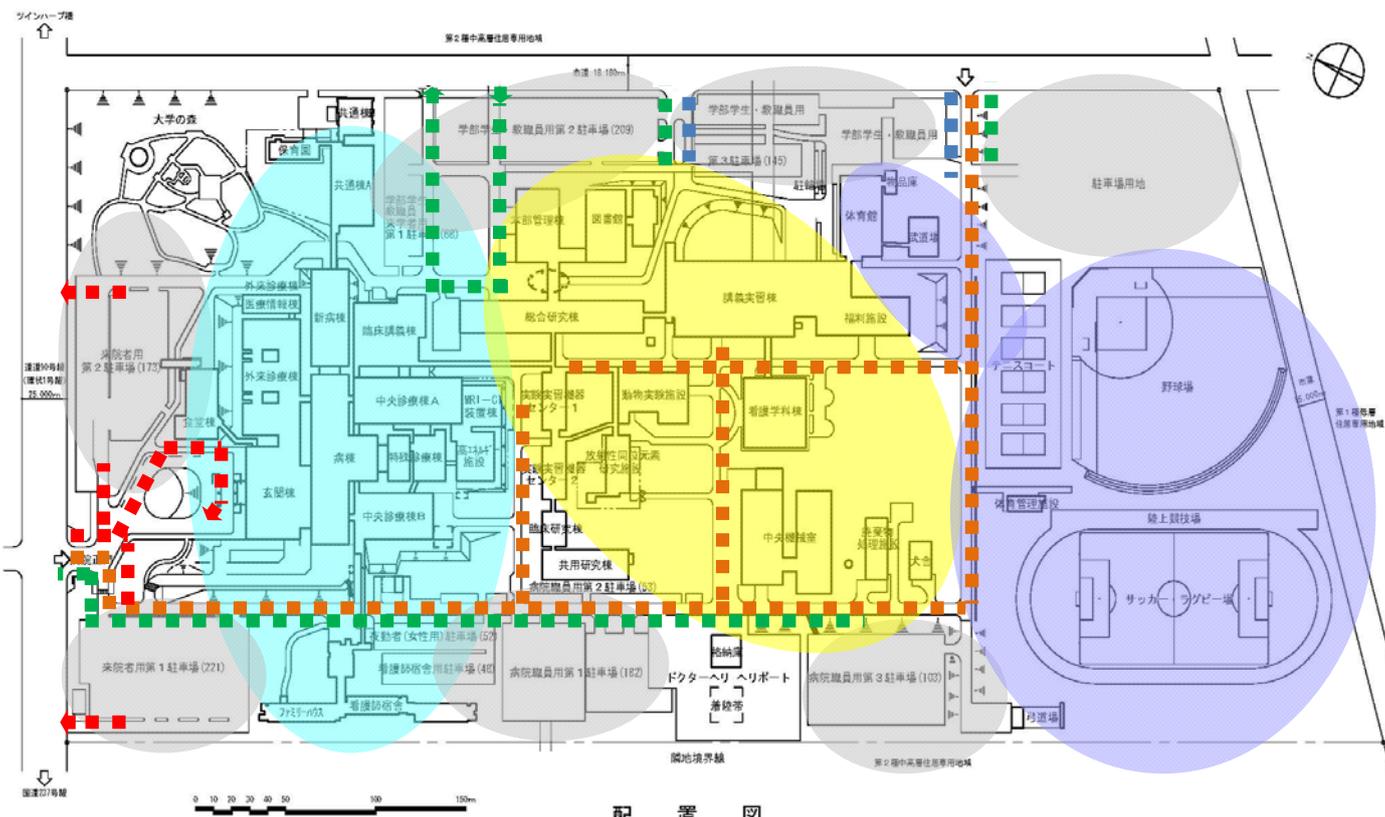
主な整備

- ・看護師宿舎
- ・ファミリーハウス



動線計画 一車両

各ゾーン（エリア）にアクセスしやすい動線を計画する。
 歩車道を分離するための検討を行う。
 正門の混雑を解消する動線の検討を行う。
 サービス道路について必要な拡充を行う。



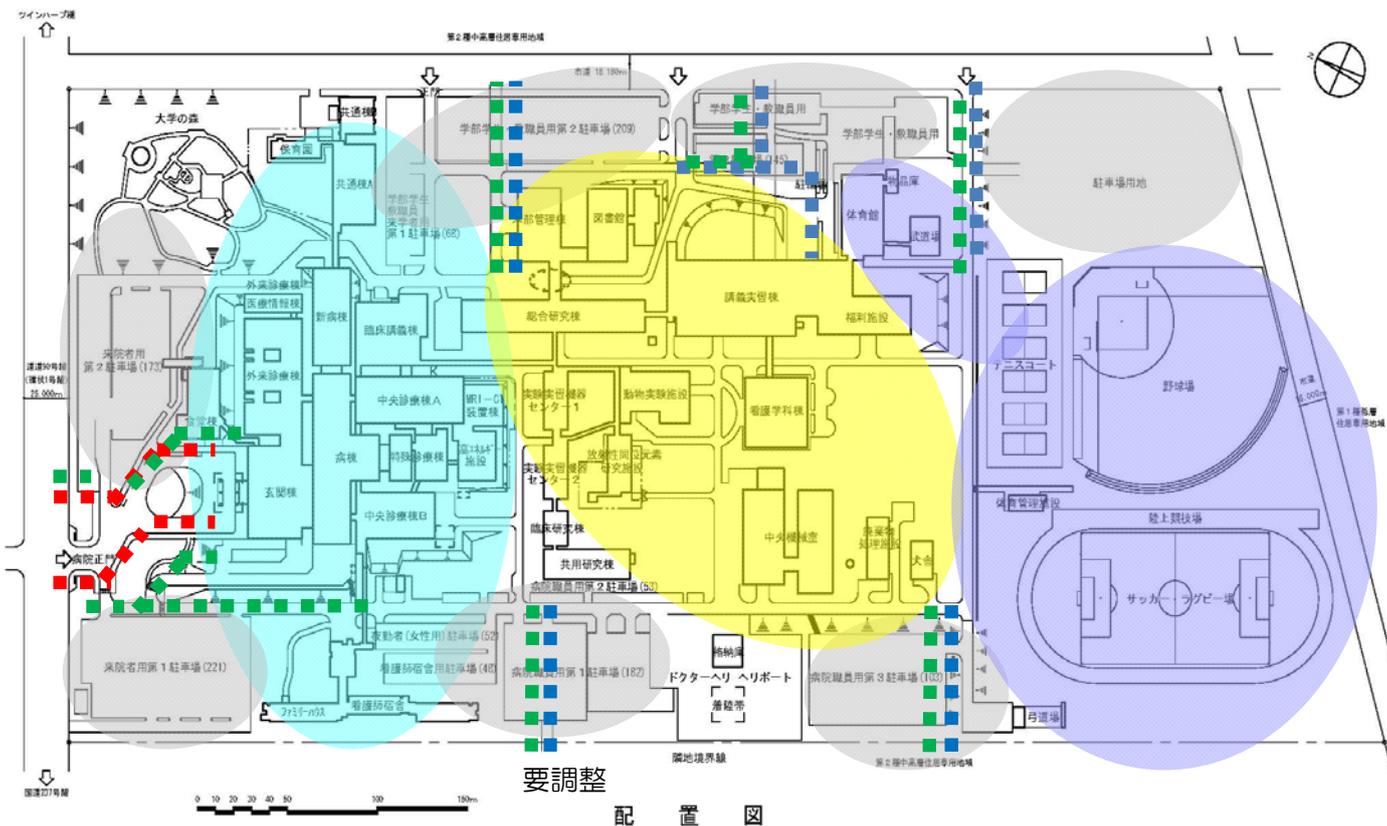
配置図

<p>凡例</p> <p>■ エリア名称</p> <p>■ 学部系エリア</p> <p>■ 病院系エリア</p> <p>■ 運動施設エリア</p> <p>■ 駐車場</p>	<p>凡例</p> <p>■ 主な動線名称</p> <p>■ 学生アプローチ</p> <p>■ 患者アプローチ</p> <p>■ 職員アプローチ</p> <p>■ サービス</p>
---	---



動線計画 一歩行者

歩車道を分離するための検討を行う。
 正門の混雑を解消する検討を行う。



要調整
配置図

凡例	エリア名称	凡例	主な動線名称
	学部系エリア		学生アプローチ
	病院系エリア		患者アプローチ
	運動施設エリア		職員アプローチ
	駐車場		



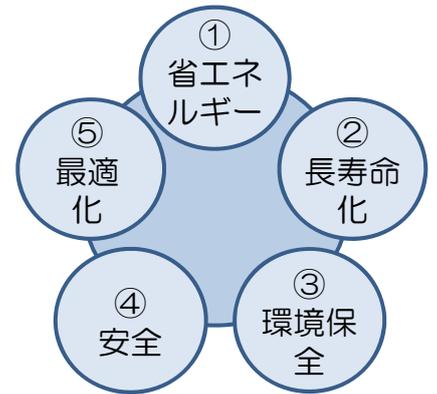
サステイナブルキャンパス計画

地球環境への配慮が求められているなかで、サステイナブルな建築が求められている。安全面、機能面の改善を行い、老朽化した建物を長寿命化し、活用して行く。

基本的方針

- ①省エネルギー
キャンパス全体の環境負荷低減を図るため、室内環境の負荷低減、消費エネルギーの削減、自然エネルギーの有効利用を図る。
- ②長寿命化
「旭川医科大学インフラ長寿命化計画」に基づき、建物の躯体、設備の長寿命化、教育・研究・診療内容の変化に対応するフレキシビリティを確保する。
- ③環境保全
キャンパス内自然環境（樹木、植栽）・景観の保全を行う。
- ④安全
学校としての安全性の確保、研究・実験環境としての安全性を確保する。
- ⑤最適化
教育・研究の変化に対応するため、減築を含めた建物規模の適正化を図る。スペースの有効活用を推進し、必要に応じて再配分する。

サステイナブルキャンパス計画



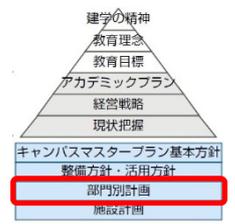
配置図

④耐震化による安全の確保

- 新耐震設計
- 耐震化・改修済
- 耐震改修予定
- T 非構造部材耐震化済

②改修による長寿命化

- 老朽解消の改修済
- 今後改修予定

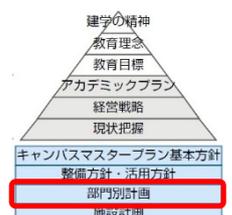


インフラ計画

病院を有するキャンパスとして、災害に強く、備えのあるインフラストラクチャーを目指す。

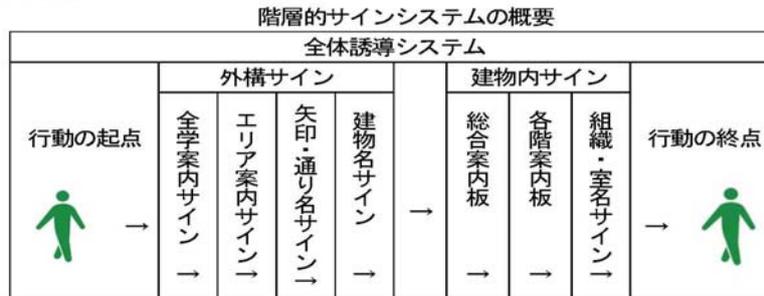
- ① 確実に供給
必要な箇所に必要分のエネルギーを確実に供給。
- ② 柔軟な対応
拡張性をもたせ、現場ニーズに柔軟に対応できること。
- ③ 自然・未利用エネルギーの活用
太陽光などの再生可能エネルギーの活用。
井水の活用。
建物自然換気、断熱化など積極的整備。

具体は、別途「旭川医科大学インフラ長寿命化計画」による。



デザイン・サイン基本計画

サインは文字・図形・記号・イラスト等により施設・建物の構成を明らかにし、利用者の移動や活動をスムーズにする情報手段であり、開かれたキャンパスを形成する上で極めて重要である。大学キャンパスという限られたエリア内でのサイン計画であるので、出来る限りデザインを統一し、雑多な印象にならないよう、シンプルなデザインとする。さらに、将来的な建物の増改築や研究室・講義室の移動に伴う表示内容の変更にも対応出来るようメンテナンス性に富んだサインとする。



(1) 基本方針

方針1 わかりやすい階層システム

- ・明確に誘導するシステム
来学者をスムーズに誘導するため、表示に階層性を持たせ、的確な位置に適切な内容を表すシステムとする。
- ・デザイン
キャンパスのサインに統一した文字、色彩、形状とする。
- ・情報の統一
ホームページ、パンフレットなど他のメディアとのイメージの統一を図る。

方針2 多様な来訪者・利用者を受け入れるユニバーサルデザイン

- ・アクセシビリティ
来学者のだれもが理解しやすいサイン計画とする。
- ・国際化
国際化に対応するため、日本語の他に英語を標記し、ピクトグラムも国際基準に基づいたものとする。
- ・ユニバーサルデザイン
サインのデザインは身障者に配慮した形状、色彩とする。
- ・安全性
避難経路等の表記など安全性に配慮したサインとする。

方針3 調和のとれたデザイン

- ・アイデンティティ
ロゴマーク、キャラクター、スクールカラーを基調とするなど、大学のアイデンティティを表出するデザインとする。
- ・環境との調和
キャンパスの屋外環境の特質を活かし、調和を図るデザインとする。
- ・更新性
新設、更新、撤去等に対応出来るよう更新性に優れたものとする。

(2) サイン計画

1) 全体誘導サイン

訪れた者が起点から終点までをスムーズに誘導できるものとし、施設の改廃に速やかに対応して書き換えができるものとする。

2) 外構サイン誘導システム

キャンパスの入り口から目的とする建物まで、方向、順路を明確にする階層システムとする。また、現在地も容易に把握できる工夫をこらす。
例：正門→矢印→目的建物

3) 建物内サイン誘導システム

建物の主要な出入り口から、①総合案内板 → ②各階案内板 → ③組織・室名サインと目的とする行き先に明確に誘導するものとする。

(3) 運用・整備

1) 運用

新築、大型改修建物は本計画を準用したサインを設置することとする。

2) 設計段階での検討

建物の設計段階で本計画に沿った検討を行い、必要に応じて関係各所と協力して整備する。

3) 既存サインの更新

既存のサインについては順次本計画に沿って更新することとし、定期的に点検を行うことにより、老朽化解消や重複する情報のサインを整理、仮設のサインなど改廃の整備を行うこととする。

4) 既存サインの撤去

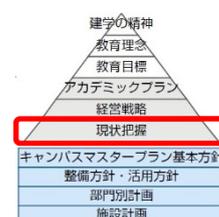
全く使用されていないサイン、掲示板、誤った情報の標識等は撤去する。



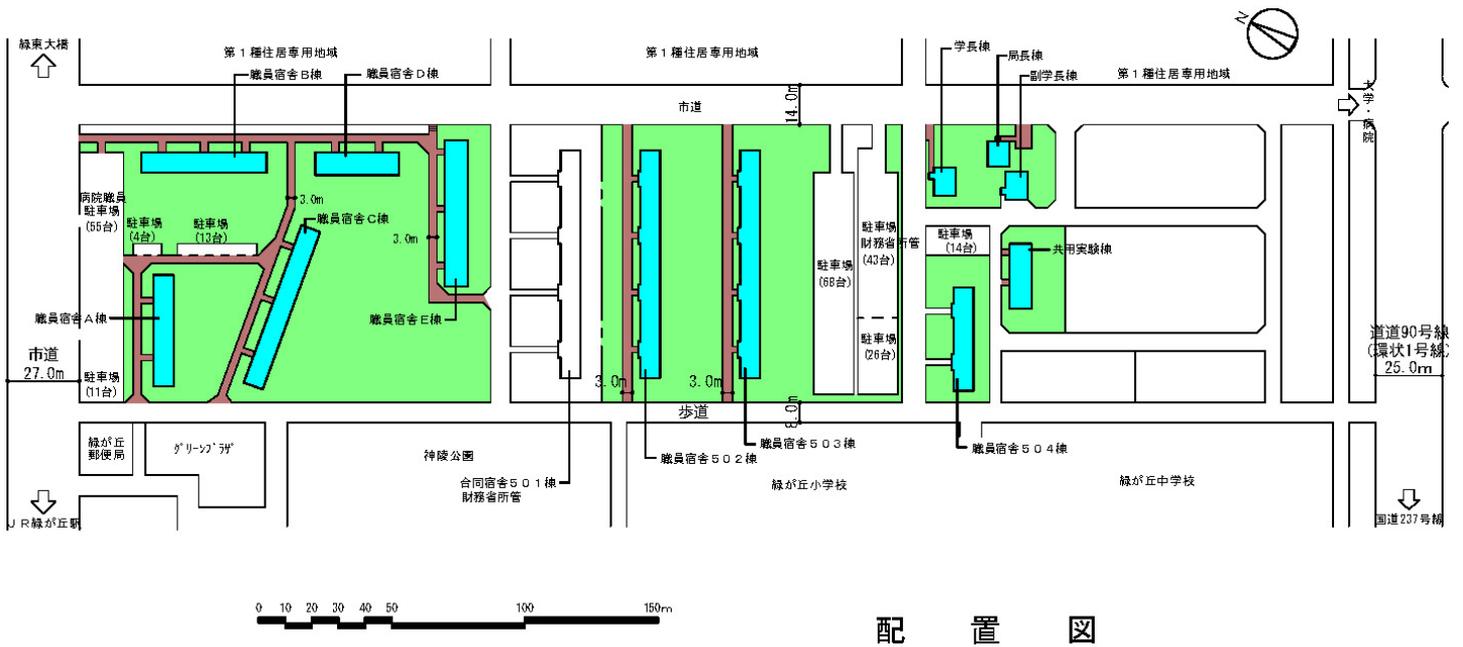
概要

概要

敷地面積	31,025㎡
建物延面積	16,496㎡
都市計画	区域都市計画区域内，市街化区域
地震地域係数	三種
用途地域	第1，2種中高層住居専用地域
地盤係数	二種
建ぺい率	60%
容積率	200%
積雪寒冷地域	一級
日影規制	3時間，2時間
その他	公害防止地域（大気汚染，騒音，振動，悪臭）

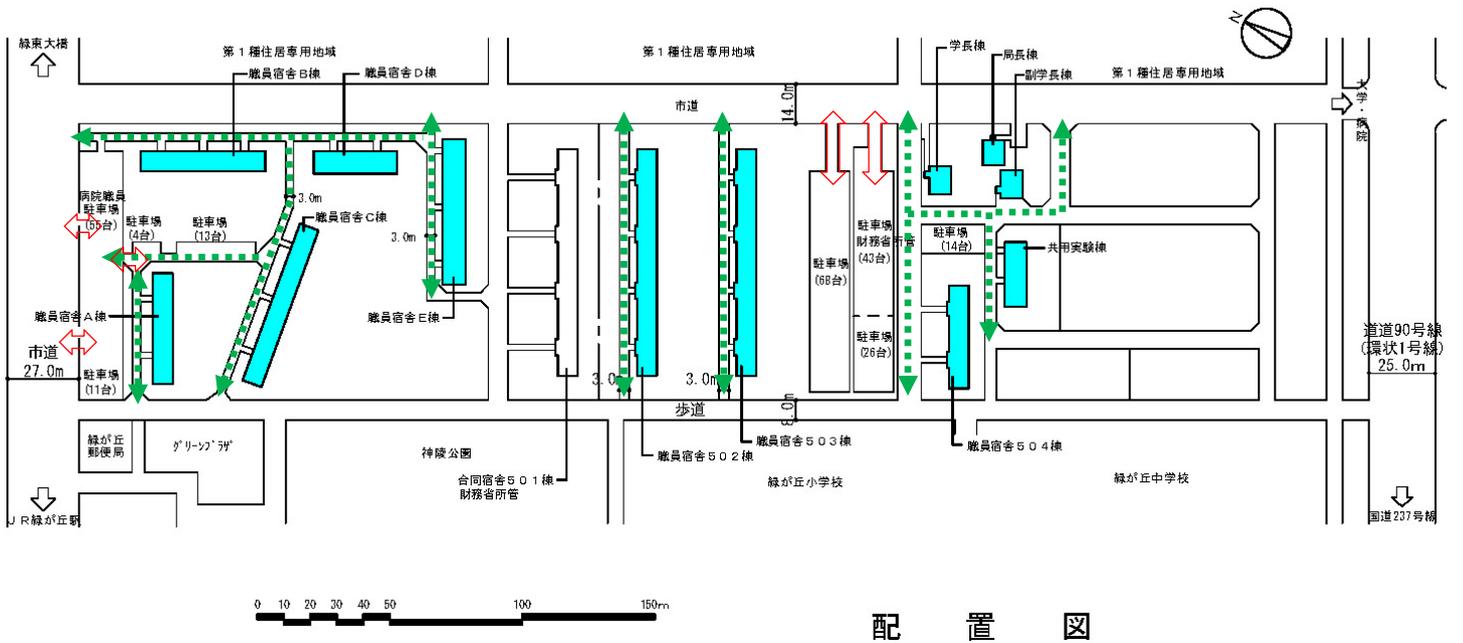


配置



駐車場・動線

- ↔ 車両動線
- 人動線



宿舎建物概要



①学長宿舎
 建築年 S55年 構造階 R1
 建築面積 95㎡
 延面積 95㎡



②副学長宿舎
 建築年 S55年 構造階 R1
 建築面積 95㎡
 延面積 95㎡



③局長宿舎
 建築年 S55年 構造階 R1
 建築面積 83㎡
 延面積 83㎡



④A棟
 建築年 S48年 構造階 R5
 建築面積 319㎡
 延面積 1,604㎡



⑤B棟
 建築年 S48年 構造階 R5
 建築面積 356㎡
 延面積 1,788㎡
 国際交流センターに用途変更



⑥C棟
 建築年 S49年 構造階 R5
 建築面積 479㎡
 延面積 2,409㎡



⑦D棟
 建築年 S49年 構造階 R5
 建築面積 237㎡
 延面積 1,203㎡
 研究医宿泊施設に用途変更



⑧E棟
 建築年 S50年 構造階 R5
 建築面積 417㎡
 延面積 2,103㎡
 保管倉庫に用途変更



⑨502棟
 建築年 S51年 構造階 R5
 建築面積 563㎡
 延面積 2,815㎡



⑩503棟
 建築年 S51年 構造階 R5
 建築面積 563㎡
 延面積 2,815㎡



⑪504棟
 建築年 S52年 構造階 R5
 建築面積 257㎡
 延面積 1,285㎡



⑫共用実験棟
 建築年 S55年 構造階数 R1
 建築面積 201㎡
 延面積 201㎡

宿舎の現状と課題

現状

宿舎の現状（2016年11月現在）

職員宿舎

現状170戸 入居54戸

研修医宿泊施設

現状8戸 入居4戸

国際交流センター

現状7戸 入居5戸

職員（宿舎入居者）駐車場

現状124台 使用41台

課題

現在の入居率は40%を下回っており、閉鎖している棟は4棟、他用途への転用棟は3棟となっている。



宿舎計画

- ①学長，副学長，局長宿舎は今後も使用が見込めないことから，売却または取り壊しを基本とし，跡地は売却または駐車場用地等に転用を検討する。
- ②502棟，503棟，504棟は将来の入居需要を併せて検討の上，縮小して改修，売却または取り壊しを基本とし，跡地については売却または駐車場用地等に転用を検討する。
- ③留学生のための国際交流センターの整備として用地を確保する。
- ④研修医宿泊施設の整備として用地を確保する。
- ⑤空き用地を，大学及び病院駐車場の不足分として整備を検討する。

宿舎の必要戸数（案）

職員宿舎

現状170戸 入居54戸

↓

必要戸数 70戸程度

研修医宿泊施設

現状8戸 入居4戸

↓

必要戸数 20戸程度

国際交流センター

現状7戸 入居5戸

↓

必要戸数 20戸程度

職員（宿舎入居者）駐車場

現状124台 使用41台

↓

必要駐車可能台数 60台分程度

※必要数については，職員の採用等の状況や入居希望状況により変更するものとする。



あとがき

「旭川医科大学キャンパスマスタープラン2016」は、本学における教育・研究・診療、社会貢献活動の基盤であり重要資源であるキャンパスの長期的なビジョンを示すものであることから、今後の施設整備を推進する上での基礎資料として活用されるものである。

また、国民から負託された資産であるキャンパスを最大限に活用し、大学の教育・研究・診療及び社会貢献につなげていくために策定されたものであり、施設整備の実施に当たってはさらに詳細な検討を要し、予算状況や施策の変化などの状況に応じて見直す必要がある。

最後に作成にあたり、ご意見要望等をいただいた学生・職員の方々に心から感謝するとともに、今後の施設整備にご協力願いたい。

作成委員：施設・環境計画専門部会

（部会長）

副学長（教育・研究・情報） 高井 章

（部会委員）

一般教育生物学教授	立野裕幸
一般教育心理学教授	高橋雅治
生化学講座教授	鈴木 裕
法医学講座教授	清水恵子
脳神経外科学講座教授	鎌田恭輔（病院長補佐）
経営企画部長教授	廣川博之（病院長補佐）
看護学講座教授	伊藤俊弘
教育センター教授	蒔田芳男（副センター長）
総務部長	土岐重利
総務部会計課長	綿矢憲之
総務部施設課長	藤井敏一
教務部学生支援課長	高見守亮

旭川医科大学 キャンパスマスタープラン2016
2017年3月発行

企画・編集

施設・環境計画専門部会

発行元

国立大学法人旭川医科大学

〒078-8510

北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号

電話 0166-65-2111 (代表)

旭川医科大学ホームページ

<http://www.asahikawa-med.ac.jp>



旭川医科大学モバイル

